

酒匂川・鮎沢川水系 活動宣言 2020

2010年の「酒匂川・鮎沢川水系サミット宣言 2010」から10年が経過しました。

この10年間、本協議会では、様々な事業を通じて酒匂川流域住民に広く流域の保全活動の必要性を啓発し、活動への積極的な参加と協力を呼びかけるとともに、利水域との交流にも尽力してまいりました。この10年間は、「酒匂川・鮎沢川水系サミット宣言 2010」の内容に沿った活動に取り組んできました。

一方で、この10年間では、東日本大震災の発生、原子力発電所の事故に伴うエネルギーの供給体制の見直しなど、自然環境を巡る世の中の動きも劇的に変化しました。そして、温室効果ガスの増加による地球温暖化の加速度的な進行は、豪雨災害の頻発化や激甚化をもたらしています。これは、もはや単なる「気候変動」ではなく、私たち人類や全ての生き物にとっての生存基盤を揺るがす「気候危機」とも言われています。利便性の追求と自然環境の保全のバランスを適正に保てなかったことから、豊かな恵みをもたらす自然環境が崩れ、私たちの生活に大きな影響を与えています。

私たちの身近には、様々な動植物が共存しており、生態系の恩恵を受けて暮らしてきました。しかしながら、自然循環は乱れ、長い時間をかけて育まれてきた生物多様性は、失われつつあります。私たちは、今こそ自然とのつながりを見直す時期に来ていると考えます。

清浄な空気、豊潤な水、食料や資材、自然が持つ防災・減災機能などその種類は数え切れません。「森」「里」「川」「海」は、身近に感じる自然資源です。「森里川海」のつながり、さらに、それを取り巻く人と人とのつながりや社会のつながりなどがあってこそ、豊かな自然環境が維持できるのです。

そこで、「森里川海」が一体的に揃っている酒匂川・鮎沢川水系を活動のフィールドとしている酒匂川水系保全協議会として、設立60周年を記念し、次のとおり、活動していくことをここに宣言します。

- 一、 酒匂川・鮎沢川が流域市町共有の貴重な財産であることを再認識し、私たちの子や孫、そして将来この流域を訪れる全ての人たちのために活動します。
- 一、 酒匂川・鮎沢川の美しく豊かな自然環境とその生態系を守り続けるため、森里川海のつながりを意識しつつ活動します。
- 一、 この母なる川、酒匂川・鮎沢川を守ってきた先人たちの努力や思いに改めて感謝しつつ、永年にわたり培われてきた、本協議会の会員のつながりを維持しながら地域とともに活動します。

酒匂川水系保全協議会

会長 守屋 輝彦

